

大阪大学図書館報

Vol. 20, No. 2 & 3, Oct., 1986 (昭61)

目 次

- | | |
|------------------------|--------------|
| ○ニューメディア時代の大学図書館 | ○会 議 |
| ○ロシア語定期刊行物コレクションについて | ○日 程 |
| ○大型コレクション購入一覧 (昭和60年度) | ○人 事 |
| ○昭和60年度国立大学図書館間文献復写実績 | ○統計 (図書館の概況) |
| ○教官著作寄贈図書 | |

ニューメディア時代の大学図書館

千原秀昭

学術情報のコンピュータによる処理と利用は世界的にますます活発化していて、もはや好き嫌いや趣味の問題でなくなっている。情報流通の形態も印刷物依存から急速に脱却して多様化が進んでいる。学術雑誌に例をとって、近未来の形を予測してみよう。

研究論文を投稿する段階ではすでにワープロの普及がめざましい。いろいろなファイル形式の間の変換ルーチンさえ整備すれば、ディスクのまま投稿でき、学会の投稿規定の中で書誌事項、章や節の見出し、図表のキャプションなどの指定の仕方を規定しておけば、そのディスクの論文は審査を通ればすぐにデータベースへ機械的に入力できる。数日のううにはその全文が世界中でオンライン検索の対象となる。雑誌の購読も、さまざまに論文単位になる。あらかじめ注文しておけば自分の専門分野に密接に関連した論文を世界の主要雑誌 100 誌から抽出し、印刷物の形か、または小さなデータベースに検索ソフトをつけた形で CD ROM で配達されるようになる。図書館等には全セットがやはり希望によって、印刷物が光ディスクで配達される。もちろん図書館のサービスはディスクや印刷物の貸出しのほかに、大型オンラインデータベースの検索あるいは配達されたディスクデータベースからの検索のようなレフェラル・サービスが次第に重要になる。

このような新しい流通方式はいまでも部分的には実現している。たとえば、学術雑誌の全文データベース化がそれで、既にアメリカ化学会発行の 19 誌はこの方式になっていて、まずデータベースが完成し、冊子体の雑誌は一つの副産物となっている。これはいま日本で普及している電算写植とは質的に異なるもので、編集段階での知的作業とコンピュータの高度利用、特に先導的なソフトウェア開発とがうまく調和してはじめて可能となっている。John

Wiley社やElsevier社発行の学術雑誌も同様な製作方法によっている。この電子出版と、雑誌全文のオンラインデータベース化以外は、まだ実現していない。アメリカの小型電算機分野でNo.1のDEC社が二次情報のCDROMによる配達を実験的に始めたものの、市場がまだ十分に熟していないとのことで、中止してしまったし、ニューメディアは送出側と受ける側とが同じ程度に準備ができていないとまくいかなことがわかる。しかしこのような試行錯誤を経て、カラーテレビのようにいずれは、あたりまえのことになっていくだろう。

文献情報についてさえ、このような大きな変革が予想されるが、ファクト情報についてはいままでの図書館が経験したことがほとんどない新しい事態に直面することになる。ファクト情報のサービスについて図書館が果たす役割は限定されたものとならざるを得ない。個々のデータベースの中味を理解して適切な検索プロファイルを組立てるためには、その分野の専門知識が必要であって、これは研究者の仕事であるが、一方個々の研究者はいろいろの情報システム一つずつが採用しているコマンド言語を検索のたびに勉強していたのでは面倒で仕方がない。そこで、実際には参考業務としてはコマンド言語のレベルまでを援助し、検索プロファイルを研究者が組立てるのを手伝う形になる。またどの情報サービスにはどんなデータベースがあって、どんな種類の情報が得られるかを常に把握しておく、つまり「情報の所在情報」サービスが期待される。ファクト情報の分野では次第にグラフィックス機能が強化されているので、ディスク配布方式のファクト情報を扱うためにはある程度のコンピュータ・グラフィックスの知識があると役に立つ。

DIALOGやSTNのような大型サービスセンターの側でも、ニューメディアの発達に歩調を合わせて、いわゆるuser-friendlyなシステムへの改良を絶えず行っている。しかし、ここにも未解決の重大なジレンマがある。誰でも予備知識なしにすぐ使えるオンライン検索サービスを作れば、どうしても単純明快なコマンド言語体系と付加機能にしなければならないが、ノイズを減らして精度の高い検索をしようとする、だんだん複雑なシステムになってしまう。つまり新しい便利な機能を追加すると、ユーザーはその機能を学ばなければ、便利さを利用できない。一年に数回しか検索しない人が100ページの手引書をいつも覚えていて、半年ごとに追加される新機能に目を光らせることも、講習会にでかけることも、ほとんど現実的でない。そこに情報専門家としての図書館職員の出番がある。積極的に情報の研修集会に参加しやすいようにする必要があろう。

はじめに「好むと好まざるとにかかわらず」コンピュータ化は避けられないと書いたが、研究というのは業務というよりも知識欲や楽しさに裏打ちされてはじめてよい成果が期待できるものである。コンピュータからはき出される非情な情報の洪水の中にあっても、よい本よい論文をじっくりと落着いた雰囲気の中で読み、頭の栄養を補給し、ものを考えるというのが研究者の本来の姿である。そうできる時間を生むために、機械ができることは機械にやらせるというのがコンピュータ化のそもそもの趣旨・目的のはずであった。新幹線ができて東京へも日帰りが普通になると、本を読みながら夜行寝台列車で出張した頃の生活に郷愁を感じる。どちらが本当の研究にプラスになるのかと問いなおすことも大切ではなからうか。

よい情報サービス、よい図書館は空気のような存在で、縁の下の力待ち的な役割をそれとなく果たしていく、研究支援組織である。阪大の学問がその水準を一層高められるかどうかは第一には研究者の質、第二には効率のよい支援組織が機能するかどうかにかかっている。

(ちはらひであき 理学部 教授 図書館委員会委員)

ロシア語定期刊行物コレクションについて

藤本 和貴夫

わが国におけるソ連・東欧地域の研究は、近年、研究者数の増加と共にテーマにも広がりが見られ、諸外国の研究機関との交流もさかんになっている。しかし、研究をささえる基礎資料ともいえるべき、これらの諸地域で刊行された新聞・雑誌など、定期刊行物の収集という点では、欧米の研究機関の長年にわたる豊富な経験と伝統に大きくゆずらざるをえない現状にある。

昭和59年度文部省大型コレクション収集計画にもとづいて本館に収集された「ロシア語定期刊行物コレクション」は、この点でのわが国の遅れをとり戻すことに貢献する上で、大変貴重なものである。本コレクションは、19世紀前半から現在まで、ロシア・ソ連で刊行された主要なロシア語の新聞、雑誌等66タイトルを含み、このコレクションの利用による今後の研究の飛躍が大いに期待されるからである。コレクションは、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、リプリント版からなり、ロシア革命以前の帝政時代のもとのソビエト時代のものに大別することができる。7月末にカタログが作成され、すでに当大学関係者および全国の大学図書館に配布されているので、以下でその主要なもののみ簡単に紹介したい。

帝政時代の刊行物では、19世紀前半、当時の首都ペテルブルクにおいて、ジャーナリストのブルガーリン編集の下に刊行された『北方のみつばち Северная пчела』紙(1825~63)が重要である。これは政治記事を掲載した民間の政治・文芸紙として、20~30年代に非常にポピュラーなものであり、一時プーシキンらの作品を掲載したことでも有名である。『モスクワ人 Москвитянин』誌(1841~56)は、歴史学者で「官制国家主義」を主張するポゴージンによって編集された文芸誌であるが、一時スラブ派の機関誌的存在となり、キレーフスキ、ホミヤコフからゴゴリまで寄稿している。また同誌は18~19世紀の記録を発掘し掲載していることでも貴重なものである。

19世紀後半から20世紀にかけて刊行された雑誌のうち、カトコフが編集した政治・文芸誌『ロシア通報 Русский вестник』(1856~1906)は、当初の穏健自由主義的傾向から、後には専制擁護に転じ、政府首脳部に影響を与えたものであるが、文芸欄ではトゥルゲーネフ『父と子』、トルストイ『戦争と平和』、ドストエフスキー『罪と罰』など多くの名作を掲載したことで知られている。これに対して、自由主義的傾向をもつ歴史・政治・文芸誌『ヨーロッパ通報 Вестник Европы』(1866~1918)は、政治面でのソロヴィヨフ、カベリン、文芸面でのトゥルゲーネフ、ゴンチャロフ、オストロフスキーら多彩な寄稿者で有名。(なお、カラムジンの創設になる同名のロシア最初の政治・文芸誌(1802~30)はすでに所蔵されている)さらに、当初、自然科学や歴史関係をあつかう一般誌として出発した『被造物界 Мир божий』(1892~1917)は、90年代後半には講壇マルクス主義者のナロードニキに対する論争の場となり、トゥガン=バラノフスキー、ストルーヴェ、ベルジャーエフら多くの論客が登場することで研究者の注目を集めるにいたっているものである。他にキエフで発行されたウクライナの自由主義的傾向をもつ歴史雑誌『キエフ古事 Киевская старина』(1882~1906)などがある。

このように、コレクションには帝政期ロシア社会の状況を総体として示す貴重な新聞・雑誌類が含まれているが、もうひとつの特徴は、帝政政府の継続刊行物が多数収集されている点にある。たとえば1768~1826年の国家評議会の記録 Архив Государственного Совета

や1892～1916年の同評議会記録、1906年に開設され、1917年に消滅するまでの国会速記録などがそれにあたる。

ソビエト時代の定期刊行物は、現在も継続刊行中のものも多い。共産党機関紙『プラウダ』は、1966年以降についてはオリジナル版が継続受入れされている。今回コレクションに含まれた同紙1917～1977年分は、従来わが国のいくつかの機関が所蔵している評判の悪い不鮮明なフィルムに変わる鮮明な画像を提供するものである。既蔵の政府機関紙『イズヴェスチヤ』と共に現代ソ連の研究に不可欠のものであることはいうまでもない。

コレクションには、この時期の哲学・思想関係の雑誌として『共産主義アカデミー通報 Вестник Коммунистической академии』(1922～35)、『共産主義の旗の下に Под знаменем марксизма』(1922～44)がある。前者の編集にはポクロフスキーら、後者はデボーリン、ミーチンらがあつたものである。政治関係は多く、共産党中央委員会の理論・政治誌『コムニスト Коммунист』(1924～60) (56年以降、オリジナル版継続受入れ)、コムソモール中央委機関誌『若いコムニスト Молодой коммунист』(1939～60)、党の理論・政策宣伝誌『共産主義革命 Коммунистическая революция』(1922～35)、さらにコミンテルン執行委員会機関誌『共産主義インターナショナル Коммунистический интернационал』(1919～43)など、ソ連だけでなく、現代史の研究にはいずれも欠くことはできない。

その他、ソ連最初の文学誌といわれ、現在注目を集めている20年代ソ連文学の一大センターとなった『赤い処女地 Красная новь』(1921～42)、農業集団化時代の研究に欠かせない共産主義アカデミー農業研究所機関誌『農業戦線にて На аграрном фронте』(1925～35)、ウラル、シベリア、中央アジアなどの諸地域の地理と民族の研究誌『ソビエト・アジア Советская Азия』(1925～31)など、その収集された刊行物の関係する分野は広く、さまざまな分野の人々の利用が可能であるものと期待している。

(ふじもとわきを 言語文化部 教授)

大型コレクション購入一覧(昭和60年度)

区分	大学名	資 料 名	備 考
外国 図 書	北海道	ベルンシュタイン・コレクション	
	岩手	英国判例集1220～1865	
	東北	19世紀英国下院議会文書 1801～1900	
	山形	近代中国史料叢刊正編	
	千葉	イギリス議会制定法集及び関係資料集	
	東京学芸	音楽学位論文集	
	新潟	西洋古典叢書全997巻	
	金沢	国連条約集	
	名古屋	リトルトン・コレクション	
	京都	20世紀初頭英国下院議会文書集 1901～1921	
大阪	ロバート・オーウェン・コレクション		

区分	大学名	資 料 名	備 考
外国 図 書	大阪外国語	アラブ、イスラム、アフリカ言語・文化コレクション	
	兵庫教育	教育学コレクション	
	神戸商船	イギリス海軍省の海図	
	和歌山	イギリス産業革命期における都市衛生とその改善	
	島根	景印文淵閣四庫文庫	
	岡山	18～20世紀初頭フランス社会経済思想史コレクション	
	山口	ギリシャ・ラテン教父全集	
	高知	ソ連・東欧に関する経済・法律資料集	
	福岡教育	教育行政学・教育組織論研究論文集	
	九州	ラテン金石碑文大成ラテン文書シリーズ	
	長崎	ドイツ教育文献コレクション(1750～1870)	
	鹿児島	海洋社会科学学位論文コレクション	
国内 図 書	北海道教育	労働省資料労働運動史、昭20～52	
	図書館情報	百万塔及び自心印陀羅尼	
	東京	国策研究会文書	
	東京学芸	双六コレクション	
	京都教育	師範学校史、各教育史和文コレクション	
	愛媛	通産省工業統計表	

昭和60年度国立大学図書館間文献複写実績

昭和60年度（上半期：60年4月～9月、下半期60年10月～61年3月）における各国立大学、高専の図書館で受付処理した複写データの処理件数は、以下のとおりである。

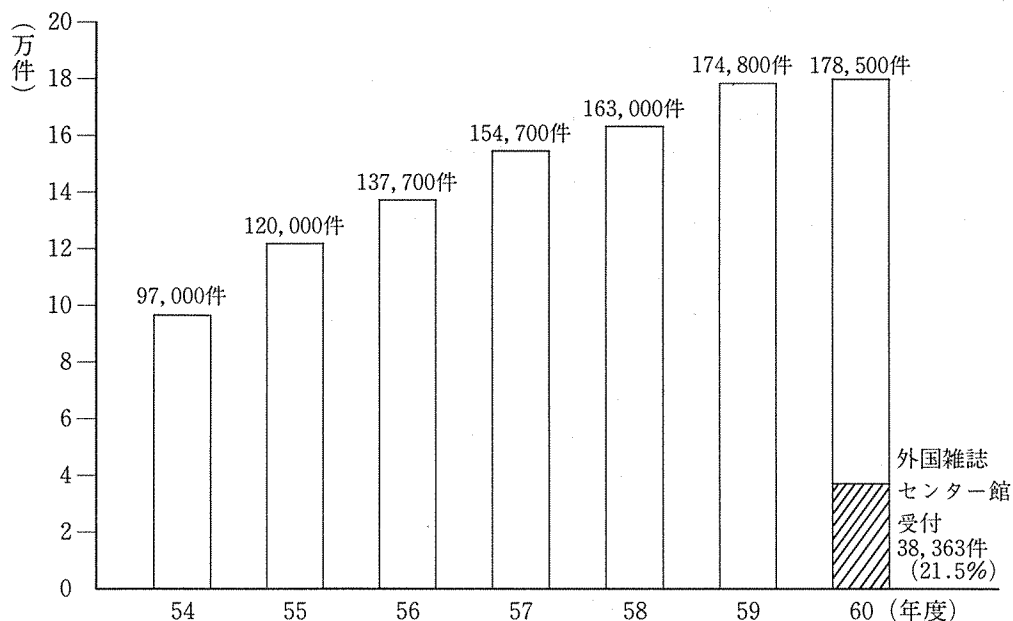
上半期	：	90,097
下半期	：	88,463
合計		178,560

下半期は、上半期に比べて、約1600件減少しているが、前年度同期と比べると、それぞれ約1.6%と、2.7%増加している。

また、年度毎の処理件数の推移をみると下図のようになる。昭和60年度の処理件数は、昭和54年度（複写データ処理センター業務開始時）に比べると、約1.8倍に達している。昭和60年度処理件数のうち、外国雑誌センター館受付分の件数をみると、38,363件で、全体の約21.5%となっている。つまり、この外国雑誌センター館6館（大阪大学附属図書館中之島分館ほか5館）で全体の2割強の処理をしていることになる。参考までに、最も処理件数の多い受付館を挙げると、本学の中之島分館で、年間、約13,000件を処理している。

(「自然科学系外国雑誌センター館分 受付件数」参照)。

(1) 処理件数の推移 (昭和54年度～60年度)



(2) 自然科学系外国雑誌センター館分受付件数

(内訳) 38,363件 (全件数に対する割合21.5%)

館名	上半期	下半期	計
東京工業大学附属図書館	5,700	5,678	11,378
東北大学附属図書館医学分館	1,747	1,742	3,489
大阪大学附属図書館中之島分館	6,791	6,266	13,057
九州大学附属図書館	3,111	3,231	6,342
東京大学農学部図書館	1,324	1,449	2,773
鹿児島大学附属図書館	747	577	1,324
合計	19,420	18,943	38,363

教官著作寄贈図書

一本館一

宮本又次 (経・名誉教授)

日間瑣事録抄 (河北印刷KK 昭60)

同上

春夏秋冬 (大技印刷KK 昭61)

石川 實 (言・教授)

中村元保 (文・助教授)

林 正則 (言・助教授)

ドイツ市民劇場研究

(三修社 昭61)

榎原 猛 (教・教授)

憲法：体系と争点

(法律文化社 昭61)

濱口恵俊 (人・助教授)

高度情報社会と日本のゆくえ

(NHK 昭61)

—吹田分館—

南 茂夫 (工・教授)

科学計測のための波形データ処理

(CQ出版 昭61)

大路清嗣 (工・教授)

破壊強度学：総合材料強度学講座 5

(オーム社 昭60)

大村皓一 (工・助教授)

パソコン武芸帳・決定版

(講談社 昭61)

米山 宏 (工・教授)

新化学ライブラリー

(大日本図書 昭61)

竹本喜一 (工・教授)

化学語源ものがたり (化学同人 昭61)

■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

——分館長会議——

61.7.11(金) 15:30~17:00 (館長室)

報告事項 1. 主要行事について 2. 昭和62年度概算要求について 3. 図書館業務電
算機の更新について 4. 図書館施設整備について：(1) 吹田分館の増築について、(2) 豊
中キャンパス基幹整備に伴う本館東口玄関の閉鎖について (3) 生物系図書館の検討につい
て 5. 図書館利用状況について、それぞれ報告と説明があった。

協議事項 1. 昭和61年度予算配分(案)について：昭和61年度予算配分調書(案)に基
づき説明があり原案どおり承認された。2. 次期図書館長の選考について、館長選考のため
の図書館委員会開催、候補者推薦依頼等の手続、日程等について協議を行った。

——図書館委員会——

61.7.18(金) 15:30~17:00 (本館・会議室)

報告事項 1. 主要行事について 2. 昭和62年度概算要求について 3. 図書館業務電
算機の更新について 4. 吹田分館の増築について 5. 基幹整備に伴う東口玄関の閉鎖に
ついて 6. 生物系図書館の検討について 7. 図書館利用状況について、それぞれ報告、
説明があった。

協議事項 1. 昭和61年度予算配分(案)について、昭和61年度予算配分調書(案)に基
づき説明があり、事業費内訳のうち、外国雑誌購入費、学生図書及び学生用図書購入費等に
ついて質疑応答があったのち、原案どおり承認された。2. 次期図書館長の選考について、
現館長が、任期満了を待たずに、今年度かぎり退官(予定)のため、新館長の選考のため
の手順、日程等の概要について協議された。

■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

61.4.11 日本医学図書館協会理事会・評議員会(61年度第1回) (日本大学会館)

61.4.17 近畿地区医学図書館協議会例会(第38回) (神戸大学医学部)

61. 4 .30 生物系図書館ワーキング・グループ第8回会合 (中之島分館)
 ♪ 第70回中之島分館運営委員会 (中之島分館)
61. 5 .¹⁵₁₆ } 第57回日本医学図書館協会総会 (山口大学)
61. 5 .19 国公立大学図書館協力委員会文献複写委員会 (第37回) (好文クラブ)
 ♪ 国立大学図書館協議会常務理事会 (昭和60年度第2回) (東京大学)
61. 5 .20 昭和61年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 (第2回) (東京大学)
 ♪ 国立大学図書館協議会理事会 (昭和60年度第3回) (東京大学)
61. 5 .21 昭和61年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大学)
61. 5 .29 生物系図書館ワーキング・グループ第9回会合 (中之島分館)
61. 5 .30 第19回国公立大学図書館協力委員会 (一橋大学)
61. 6 .6 第55回近畿地区国公立大学図書館協議会総会 (大阪外国語大学)
61. 6 .10 国立大学図書館協議会常務理事会 (東京大学)
61. 6 .11 第33回国立大学図書館協議会総会 (東京医科歯科大学)
61. 6 .12 第33回国立大学図書館協議会分科会・全体会議 (東京ガーデンパレス)
61. 7 .11 分館長会議 (本館)
61. 7 .18 図書館委員会 (本館)
61. 8 .4 自然科学系外国雑誌センター館打合せ (東京大学)
61. 8 .5 第1回学術情報センターシンポジウム (日本学術会議)
61. 8 .23 国立大学図書館協議会学術情報システム特別委員会 (学士会館)
61. 8 .24 日米大学図書館セミナー ()
61. 8 .25 } IFLA (International Federation of Library Associations and Institutions)
 61. 8 .29 } 東京大会 (青山学院大学)

■■■■■■■■■■人 事■■■■■■■■■■

異動前の所属・職名	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
		(採 用)	
	能津かおり	事務補佐員整理課会計掛	61. 6 . 1
		(配置換)	
整理課庶務掛主任	村尾 泰雄	医学部附属病院総務課庶務第1掛主任	61. 6 . 1
産業科学研究所総務課人事掛主任	児玉 良治	整理課庶務掛主任	♪
整理課洋書目録掛主任	平林 京子	閲覧課閲覧第三掛主任	♪
		(転 任)	
筑波大学図書館部文部事務官	松原美重子	吹田分館運用掛	61. 6 . 1

昭和60年度 図書館の概況

館(室) 項目		本館				中之島分館				吹田分館		薬学部 分館	合計		
		本館	人間科学部 分室	理学部 分室	基礎工学部 分室	中之島 分館	歯学 分室	微生物病 研究所分 室	蛋白質研 究所分 室	吹田 分館	産業科 学研究 所分 室				
蔵書・ 受入	蔵書数	1,032,877	108,627	126,460	101,945	237,046	※	26,102	12,443	321,454	41,179	30,785	2,038,888		
	図書受入数	38,509	6,727	3,258	3,057	9,787	1,024	1,190	611	7,713	996	1,033	73,905		
	現行雑誌 受入タイトル数	8,478	1,208	604	1,200	5,271	335	275	303	2,406	398	266	20,744		
	図書・雑誌 資料費(千円)	310,082	48,970	59,909	71,733	173,039	※	12,795	8,374	140,724	20,509	12,053	858,188		
施設・ 職員	建物面積 (㎡)	9,488	543	667	453	2,503	200	267	288	2,747	387	374	17,917		
	閲覧座席数	866	53	52	45	164	20	13	19	236	24	50	1,542		
	職員数 (内定員)	55 (31)	4 (4)	5 (2)	6 (6)	24 (12)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	19 (6)	3 (3)	4 (3)	126 (72)		
利用・ 貸出	年間入館者数	882,339	—	—	—	136,236	23,562	25,107	—	160,789	10,360	—	1,238,393		
	館外貸出人数	49,472	2,350	8,059	7,885	26,712	7,665	2,320	1,957	21,584	1,183	2,703	131,890		
	館外貸出冊数	89,959	3,628	11,917	12,419	44,579	10,546	3,559	2,272	35,294	2,555	3,623	220,351		
文献 複写	受付	部内 から	件数	—	—	9,842	—	—	—	1,564	23,552	56,485	91,443		
		枚数	—	—	169,797	200,863	587,262	20,447	235,657	238,302	21,028	198,909	279,035	1,951,300	
		学内 から	件数	1,103	74	2,092	307	4,364	328	3,883	1,887	336	3,223	681	18,278
		枚数	31,526	804	12,368	3,378	—	—	23,216	10,550	3,956	17,970	3,219	106,987	
	学外 から	件数	3,575	—	1,512	803	258,562	※	633	—	2,534	—	1,468	269,087	
		枚数	37,848	—	10,476	5,723	1,636,588	※	3,434	—	19,668	—	8,145	1,721,882	
依頼	学内 へ	件数	1,586	278	1,163	956	653	945	1,605	591	748	583	808	9,916	
	学外 へ	件数	919	302	404	364	1,315	224	195	40	1,238	84	240	5,325	
図書相 互貸借	受付	学内 (件数)	110	66	248	101	192	5	17	8	39	19	47	852	
		学外 (件数)	278	—	—	0	5	※	2	0	15	0	0	300	
	依頼	学内 (件数)	1,794	35	44	22	66	77	22	10	57	1	80	2,208	
		学外 (件数)	101	—	—	0	31	※	1	0	11	0	0	144	
参考 調査	文献所蔵調査	6,743	100	235	—	4,394	498	239	—	4,963	1,172	—	18,344		
	事項調査	219	3	74	—	598	98	10	—	409	35	—	1,446		
	利用指導	423	2	74	—	540	37	40	—	620	21	—	1,757		
	情報検索	127	—	—	—	1,121	185	92	—	272	—	38	1,835		

○※印は、中之島分館にふくまれる。

○ — は、該当なし。または、正確な数字が把握できない。

大阪大学図書館報 Vol. 20. No. 2&3 通巻85号 昭和61年10月1日発行
 発行所 大阪大学附属図書館 〒560 豊中市待兼山町1の1 ☎ 06(844)1151 内線2355